【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	第一中学校
校長名	五百川　勝	電話番号	0848 - 62 - 3211
分野・領域	□人材育成　■学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	生徒が「納得する」授業の創造 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を通して～		
当該ページのアドレス	http://www.mihara.hiroshima.jp/site/jh-daiichi/		
研究内容	研究仮説 授業をユニバーサルデザイン化し，配慮を要する生徒には「不可欠な支援」を，周囲の生徒には「より有効な支援」をすることにより，生徒が「納得する」授業の創造ができるであろう。また，そのことが基礎・基本の習得や活用並びに課題解決能力の育成に結び付くであろう。 ① 授業改善に向けた視点と柱 ○授業の構成 「一中ブロック小・中学習モデル」とユニバーサルデザイン化の視点 ○家庭学習を活かした授業展開 ○ペア学習，教え合い学習等，ねらいに応じた学習形態の工夫 ○振り返りテストの実施と補充学習の工夫 ②自己肯定感を育む集団づくり ○ほめ方，叱り方 ○人間関係づくり		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	第二中学校
校長名	日名貞秋典	電話番号	0848-62-3212
分野・領域	□人材育成　■学力・学習意欲　■生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	基礎的な知識・技能の習得と思考力・表現力の育成 ～生徒指導の三機能を生かし，言語活動（「書く」活動）を工夫した授業づくりを通して～		
当該ページのアドレス	http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-daini/		
研究内容	①　広島県中学校生徒指導集中対策指定校を受け，校内指導体制及び関係機関・小学校等との連携により，生徒指導体制の確立を図る。 ②　昨年度までの学力向上総合対策事業の成果を各教科に活かし，生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした授業者の姿勢や指導技術を向上させることで授業改善を図る。また，「学びの変革」のため，道徳教育・防災教育の実践を積み上げる。		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	三原市立第三中学校
校長名	赤羽　敬	電話番号	0848-62-3213
分野・領域	□人材育成　(□)学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	ピア・サポートの充実を通して思考力・表現力の育成を図る ～三中授業モデルの実践を通して～		
当該ページのアドレス	www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-daisan/		
研究内容	学級活動, 総合的な学習でのピア活動と生徒指導の一体化で培う人間関係力を授業で活かし，思考力・表現力を育成する。 ①三中授業モデルでの集団思考（２つのピア活動）の充実 ・教え合いのピア（基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得） ・深め合うピア（思考力・表現力の育成） ②学級でのピア活動の充実 ③総合的な学習のピア活動（学年ごとの活動）		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	三原市立第四中学校
校長名	岡野和史	電話番号	0848-69-2594
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	基礎的な知識・技能の習得と思考力・表現力の育成 ～生徒指導の三機能を生かし，言語活動を工夫した授業づくり～		
当該ページのアドレス	http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-daiyon/		
研究内容	１．研究仮説 生徒指導の三機能を生かし，言語活動を工夫した授業づくりを効果的に取入れることで，知識・技能の習得や，思考力・表現力の育成等，確かな学力の定着を図ることができるであろう。 ２．検証の指標 ○標準学力調査の結果の推移 ○基礎基本状況調査の結果の推移 ○全国学力調査問題の結果の推移 ○定期テストにおける思考力・表現力問題の結果の推移 ○生徒アンケートの結果 ３．達成目標 ○標準学力調査の平均通過率を各学年次の通りとする。 1 学年，3 学年…市平均以上，2 学年…市平均 100 に対して 105 以上 ○基礎基本状況調査の平均通過率 80%以上 ○全国学力調査の正答率，全国平均以上 ○定期テストにおける思考力･表現力問題の通過率の伸び率 5 ポイント以上 ○生徒アンケートで肯定評価が 80%以上にする。		
備考	公開研究会：平成 27 年 9 月 30 日（水）		

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	第五中学校
校長名	大畑文信	電話番号	0848 - 66 - 0251
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	「自信と意欲を高める学力向上の取組」 ～授業づくり・学習サポート・学級づくりの改善を通して～		
当該ページのアドレス	http://www.mihara.ed.jp/~ dai5-jh/		
研究内容	授業づくり ①　本時の目標の提示と振り返りの時間の設定 ②　言語活動（「話し合い活動」）の工夫　【思考力の育成】 本時のねらいを達成するための言語活動の工夫 個人思考⇒集団思考⇒練る・まとめる⇒表現 ③　校内授業研究の充実（授業交流週間の実施） ④　五中授業モデルに沿った授業づくりと学習規律を基にした取組 ⑤　授業との連動による家庭学習の充実・定着 学習サポート ①　個に応じた家庭学習内容の設定 ②　自主学習・毎勉などによる家庭学習の習慣化 ③　学力補充部による補充学習（重点個別指導） ④　給食前の多目的教室での補充学習 学級づくり ①　年間６回のピア・サポート活動（人間関係づくり） ②　指導案の事前検討 ③　特別活動（学級活動（ピア・サポート活動）・行事）と連動した道徳　※市町の挑戦支援加配の活用 ④　ハイパーＱＵの実施による生徒実態の把握 ⑤　ハイパーＱＵの活用方法に関する研修の実施		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	幸崎中学校
校長名	舛金　智秋	電話番号	0848-69-0004
分野・領域	□人材育成　■学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　■教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	思考力の育成による基礎学力の定着をめざして		
当該ページのアドレス	www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-saizaki/		
研究内容	**研究仮説** シンキングツールを活用した授業を積極的に取り入れることにより，生徒の思考の方法や幅に広がりができるとともに，「できた」「分かった」という実感を持たせ，より分かり易い授業を展開できるであろう。また，思考力の高まりは，学習意欲にも大きく影響し，基礎学力を定着させることができるであろう。 **研究の視点** 広島版「学びの変革」アクションプランの具現化に向け，個人思考や集団思考の場面において基本となる思考の方法（シンキングツール）について，職員が互いに学び，積極的に授業に取り入れることで，互いの授業の質を向上させることを目指す。 年度計画については，初年度にあたる平成 27 年度に職員研修とモデル授業を，次年度には改善後の授業の定着化を図り，その成果を検証する意味でのブロック公開を行う。 **成果と課題の把握の手立て** ・「生徒アンケート」（５・７・12 月） ⇒　【意識の変化】　※授業の理解度や家庭学習に関する項目の肯定的評価ＵＰ ・基礎基本定着状況調査（６月），全国標準学力検査（１月） ⇒　【内容の変化】　※「基礎」と「活用」の観点で昨年度の結果を上回る。		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	三原市立宮浦中学校
校長名	岡　田　康　浩	電話番号	０８４８－６４－１５９１
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　広島学びの変革パイロット校　）		
研究主題	コンピテンシーの育成をめざした学びの創造 ～コミュニケーション力を活用した授業の工夫を通して～		
当該ページのアドレス	http.//www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-miyaura/		
研究内容	各教科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発 １　課題解決の学習過程を明確にした単元を各教科１つは位置づけて研究授業を進める。 ２　課題解決の学習過程を明確にした総合的な学習の時間に再構成する。 そのために　①　学習者の意欲を喚起する学習課題提示の工夫 ②　解決のための方法の工夫改善 ③　思考し判断したことの表現 また，本校では iPad を活用して生徒の興味関心を高めながら理解力アップに繋げる取組みや，共同学習の工夫改善も進めています。		
備考			

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	本郷中学校
校長名	原　克幸	電話番号	0848－86－2030
分野・領域	□人材育成　☑学力・学習意欲　☑生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 □その他（　　）		
研究主題	基礎学力の定着と学習意欲の向上 ～生徒指導三機能による授業改善～		
当該ページのアドレス	http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-hongo/		
研究内容	(1) 授業改善 ・めあての明確化 ・授業の流れが分かる板書 ・思考させる場面の意図的設定（発問の工夫） ・めあてに対する評価 (2) 家庭学習 ・本 GO ノートの活用 (3) 生活規律・授業規律 ・生活三訓（挨拶・時間を守る・身辺整理）の徹底 ・本郷スタイル（学習規律）の定着		
備考			

平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

<table>
<tr><td>市町名</td><td>三原市</td><td>学校名</td><td>久井中学校</td></tr>
<tr><td>校長名</td><td>西田光也</td><td>電話番号</td><td>0847-32-6019</td></tr>
<tr><td>分野・領域</td><td colspan="3">☐人材育成　☑学力・学習意欲　☐生徒指導　☐キャリア教育
☐学校・家庭・地域の連携・協力
☐学校経営　☐服務研修　☑教育研究　☐進路指導　☐食育
☐教育課程　☐体力つくり　☐情報教育　☐伝統文化　☐情報発信
☐危機管理
☐その他（　　）</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="3">思考力・表現力を高める授業の創造
～特別支援教育の視点をいかした指導方法の工夫～</td></tr>
<tr><td>当該ページのアドレス</td><td colspan="3">http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/jh-kui/</td></tr>
<tr><td>研究内容</td><td colspan="3">「小学校と連携し小中学校教職員が協同して 9 年間で児童生徒を育成する」理念のもと次の研究を進めています。
(1)　環境整備
児童生徒が落ち着いて学習できるように，視覚的な情報の精選，教室内の整理整頓に取り組んでいます。
(2)　授業改善
ユニバーサルデザインの授業を目指し，次の視点で授業改善に取り組んでいます。
ア　「学び合う」授業の創造
イ　学習指導案の工夫
ウ　視覚化
エ　作業化
オ　パターン化</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

【様式１】平成２７年度　県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	三原市	学校名	大和中学校
校長名	岡野　哲朗	電話番号	0847-34-1111
分野・領域	□人材育成　□学力・学習意欲　□生徒指導　□キャリア教育 □学校・家庭・地域の連携・協力 □学校経営　□服務研修　□教育研究　□進路指導　□食育 □教育課程　□体力つくり　□情報教育　□伝統文化　□情報発信 □危機管理 ■その他（　人権教育　　）		
研究主題	自分と地域に誇りを持ち，自他の良さを認め合う生徒の育成		
当該ページのアドレス	http://www.mihara.ed.jp/~daiwa-jh/		
研究内容	少子高齢化の波と地域住民の閉鎖性，さらには地域産業の停滞により，生徒は自分の育っている地域への誇りを十分に持てていない状況にある。また，競い合い自己を磨いていくという意欲的な姿勢に乏しく，そのため自己表現力が十分に身についていない。 一昨年度から文部科学省の指定を受け，人権教育研究に取り組み，集会や掲示物等により生徒の活躍を紹介する場を設けたり，学級において「バースデーカード」などに取り組んだ結果，他者を肯定的に評価する態度は育ってきている。全体的にみると，他者を尊重する態度や意識は育ちつつあるが，生徒一人ひとりに焦点をあてると，自己肯定感の育成に課題がある。 本年度は人権が尊重される「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」「教職員研修の充実」の４点により，自分と他者を大切にする生徒の育成をめざし，研究を推進している。 １１月１３日（金）には広島県中学校教育研究会人権教育研究大会が本校を会場に開催される。		
備考			